

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02668

研究課題名(和文) 職業・キャリア教育には国を超える制度設計が有効か 国際バカロレアでの展開を焦点に

研究課題名(英文) Is transnational system design useful for vocational and/or career education?:
Focusing the development through International Baccalaureate

研究代表者

柳田 雅明 (YANAGIDA, Masaaki)

青山学院大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：20260523

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、職業とキャリアに関する教育において、国という単位を超える(transnational)枠組みが各国・地域でどう機能するのかを、後期中等教育段階カリキュラムに着目して、「国際バカロレア・キャリアプログラム」(IBCP)を、イギリス(イングランド)・UAE(ドバイ)・シンガポールについて、比較研究した。「国を超える」「国・地域における」「現場・地元における」また「学習成果に関する評価厳正性と到達度」「学習機会に関する包摂性」「持続可能性、特に財源面において」ならびに実践校における「プログラム導入目的」「入学者選考における包摂・選別」について各比較対照表として暫定的に示せるに至った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国という単位を超えるカリキュラム枠組みに着目して研究を進める重要性をさらに認識できた。特に、職業専門教育内容を組み込んだ取り組みが、各国それぞれに存在していることに切り込むことがやはり重要であると改めて確認できた。本研究で軸として検討した「国際バカロレア・キャリアプログラム」(IBCP)が、国際バカロレアが独自に設定し評価認定してきた部分とで、質保証や水準の維持でどう関係し合うのかをより明確にすべく検討することが課題であるとはっきりできた。当初目指した研究成果という観点からはまだ全く不十分な段階であるものの、研究深化に資するよう取り組み、今後の発展を可能とするかなりな基盤は作れたと言える。

研究成果の概要(英文)：The research questions were “How does a transnational framework for vocational and career curriculum function in national and local development?” and “Does the framework function inclusively, fairly, and sustainably across different national contexts?” with sub questions, a. Is rigor maintained across general and vocational learning? b. How is socio-economic inclusiveness ensured?” and c. “Is resource management sustainable, particularly regarding financial matters?”

The findings will not comprehensively answer these questions, but the comparison between the three target areas will shed light on them both. The research project team can interpret the IBCP as a transnational framework in each area, as demonstrated as three matrixes regarding the comparison of the IBCP between the three targets focusing on “the three layers of transnational, national, and local,” “rigor, attainment, inclusiveness, and sustainability in financial aspects” and “purpose and admission at each school.”

研究分野：職業教育・キャリア教育におけるカリキュラム研究

キーワード：国という単位を超える キャリア教育 後期中等教育における職業教育 高大接続 厳正性と包摂性
国際比較 国際バカロレア イングランド・ドバイ・シンガポール

1. 研究開始当初の背景

職業とキャリアに関する教育を大きな課題を抱えている今よりも良いものとするのには、何をどうすれば良いのか。これが、本研究において出発点となる問題意識である。その良いものとするためには、国という単位を超える制度設計が有効となるのではないかと発想したことから、本研究が始まっている。

では、その国という単位を超える制度設計による可能性と課題・限界は何になるのかと考えた時、国際バカロレア(International Baccalaureate)に着目できた。国際バカロレアは、統合的な資質形成に優れる教育プログラムとされ、殊に大学への進学準備教育として国を超えて評価を得てきている。「2020年までに国際バカロレア認定校等一部日本語による教育プログラムの開発・導入等を通じ、200校以上に増やす」と文部科学省が示した政策推進のもと、日本の公立校へも広がっている。一方、職業教育、殊に後期中教育段階での職業専門教育は、国際情勢に影響を大きく受けることがありつつも、基本として地域労働市場に即すものと見なされてきた。キャリア教育に関しても、国内限定の取り組み・施策として多くが存在してきたと言えよう。

そのような中、「国際バカロレア・キャリア関連教育証書」(International Baccalaureate Career-related Certificate、略称 IBCC)が、後期中等教育段階の16歳以上標準2年で、導入国固有の職業資格などを従来設定の世界共通の学習領域とともに組み込み、2012年より正規開始した。2014年には「国際バカロレア・キャリア関連教育プログラム」(International Baccalaureate Career-related Programme、略称 IBCP)と改称し、2016年10月現在世界20カ国で128校が導入するに至っていた(2022年6月現在では314校)。ただ、日本での導入は、まだない。

以上の背景が、職業とキャリアに関する教育を今よりも良いものとするのに、国という単位を超える(transnational)枠組みを設定したらどうなるのか、国際バカロレア、中でも特にその「国際バカロレア・キャリア関連教育プログラム」を焦点として知見を獲得することが大いに意味を有すると認識させたのであった。

2. 研究の目的

職業とキャリアに関する教育を今よりも良いものとするのには、何をどうすれば良いのか。そのためには、国という単位を超える制度設計が有効ではないか。この出発点となる問題意識に従って、核とするリサーチクエスチョンを、後期中等段階を焦点とする検討対象として、次の通りに立てた。

職業とキャリアに関する教育には、国という単位を超える制度設計がはたして有効に機能するのか

本研究の目的は、このリサーチクエスチョンへの回答を得ることとした。その回答を得るため、「国際バカロレア・キャリア関連教育プログラム」(IBCP)について、その取り組みで先行すると判断したイギリス(イングランド)・アラブ首長国連邦(ドバイ)・シンガポールとで国際比較研究をした。たしかに、国際バカロレアは、国という単位を超える(トランスナショナルな、transnational)制度設計がされ、国境を越えて殊に大学進学時の学業到達度として質保証ができていとされてきた。

本研究で焦点を当てた検討対象は、カリキュラムであった。カリキュラムに焦点を当てることにより、理論・政策・制度と学校現場の間との対応関係が明確な形で表れるので、双方の間にごくまで整合性があり、またどのような葛藤・乖離・齟齬などがあるかを、構造として位置付けつつ明らかにしていける。

そして次の3つのサブクエスチョンを設定することで、より具体的に検討対象に切り込んでいけると考えた。

- a. 到達度の水準維持が、厳正性と包摂性とを両立して、職業教育・一般教育/普通教育(general education)ともできているのか
- b. 包摂性を、社会経済的、文化間的、宗教的といった点も含め、どう実現できているのか
- c. 財源的なことをはじめ果たして実現・持続が可能となっているのか

以上の問いに答えていこうとする比較検討をするにあたって核として考察したのは、地域労働市場そして大学等進学者増大を踏まえ、包摂性と厳正性とを両立可能性および高等教育機関進学を含めての進路多様性であった。

3. 研究の方法

本研究では、「国際バカロレア・キャリア関連教育プログラム」(IBCP)をイギリス(イングランド)・アラブ首長国連邦(ドバイ)・シンガポールとで国際比較することにおいて、次の手続きを踏んだ。

研究方法は、ケース・スタディを軸とした質的手法を基本とした。具体的には、IBCP 実施校を軸とする現地訪問調査を核とした。訪問調査では、準構造化した質問項目を事前に伝えての対面聴き取り調査を基本とした。さらに、授業を参観し、学習材をはじめとする現物資料の雛形を分けていただき、また実物資料をデジタル・カメラ等で撮影もさせていただいた。学内内部資料も閲覧・複写等により可能な限り電子化したものも含め入手できた。

以上の手法によって国際比較検討をしていった際には、IBCP と全く同じ学年となり、大学等高等教育機関へと進学するよう設けられかつ広く知られている「国際バカロレア・ディプロマ・プログラム」(IBDP)とを対比することを、柳田研究代表者前回科研費研究「国際バカロレア・モデルによる職業・キャリア教育の可能性 -イギリスを手がかりに-」に引き続き力点に置いた。

以下各年度でどう研究作業をしたのかを示す。共同研究であるため、海外現地調査などはその役割分担に従い研究分担者等のみで行ったものもある。

平成 29(2017)年度には、全体研究会を、対面を基本としつつも電子遠隔会議システムも活用して2回、また下記海外現地調査に向けての研究会を2回、計4回実施した。海外訪問調査は、イギリス(イングランド・ケント州とロンドン)(2017年9月と2018年3月)およびアラブ首長国連邦(ドバイとアブダビ)(2018年3月)で実施できた。現地実践校(送り出し先となる後期中等教育機関と受け入れ先となる大学等高等教育機関)および政策担当者ならびに現地専門研究者を訪問し、対面による聴き取り調査ができた。また、専門研究者等からの意見聴取も、追って「5. 主な発表論文等」で詳記する発表をした際などにできた。

平成 30(2018)年度は、全体研究会を、対面を基本としつつ電子遠隔会議システム活用にて2回、また下記海外現地訪問調査に向けての研究会を2回、前年度と同じく計4回実施した。現地訪問調査は、イギリス(イングランド・ケント州とロンドン)(2019年2月・3月)およびシンガポール(2018年9月)で実施できた。現地実践校(送り出し先となる後期中等教育機関と受け入れ先となる大学等高等教育機関)および教育推進関連地元非営利組織、ならびに政策担当者および現地専門研究者を訪問し、対面による聴き取り調査ができた。学会大会等発表としては、共同発表2件を含め7件において、専門家からの意見聴取もできた。加えて、関係最新学術理論を学ぶ機会として、教育における「トランスナショナル」(transnational)に関連する学術研究を世界で主導するジェーン・ナイト(Jane Knight)博士が基調講演を行った国内開催国際セミナーに参加した。本科研成果の海外発信に向け、学会主催セミナーにも参加した。

令和元(2019)年度およびコロナウィルス世界的感染による研究計画実施困難による繰り越しを認めていただいた令和2(2020)年度と3(2021)年度では、これまでの研究成果を問い専門的知見をいただく場とできたのは、World Education Research Association 2019: Focal Meeting in Tokyo[世界教育学会2019年東京集会]における追って「5. 主な発表論文等」に詳記する研究発表であった。ところが、その研究発表内容をさらに発展させるべく計画していたイギリス(イングランド)およびアラブ首長国連邦(ドバイ)の現地訪問追加調査は、コロナウィルス世界的感染状況が収まらず、結局実施できなかった。そのような状況に陥ってはいても、可能な限り次善となるよう、それまで行ってきた研究作業をとりまとめる形として、追って「5. 主な発表論文等」に詳記の通り査読付き論文2編(うち1編は学会誌)を公にでき、学会発表1回も行えた。またその2論文での到達点を踏まえて、繰り越し最終年度となった令和3年度末3月に、それまで行ってきた研究作業を省察し、研究方法改善およびその基盤となる学術理論ならびに比較対象国・地域の拡充も含めた今後の研究発展を視野に入れて、全体研究会を2回行った。

なお、青山学院大学教育人間科学研究所プロジェクトが、本科研究採択年度すべてにおいて併せて採択となったこととも相まって、同プロジェクトと連携して開催されている「現代イギリス教育研究会」(青山学院を主催として30年を超えて継続し、現在構成するのが約60名で)において、充実した研究討議を、殊に上記令和3年度3月末全体研究会の一つとして実施できたことを付記しておく。また青山学院大学総合研究所「基盤研究強化支援推進プログラム」を、科研費繰り越しとなった令和2年度・3年両年度において採択されたことも、ハードウェアとソフトウェア両面における研究基盤を充実させた。さらに特筆すべきは、「教育の国際化研究会」(早稲田大学情報教育研究所・明治大学サービス創新研究所共同主催)が知見を磨く貴重な場となったことである。「教育の国際化研究会」では、国際バカロレア専門研究者・実践家をはじめ、多様な視座と知見を持つ方々と、大変有益な情報交換ができ、研究理論を発展させる機会となった。

4. 研究成果

職業とキャリアに関する教育を今よりも良いものとするのには、何をどうすれば良いのか。そのためには、国という単位を超える制度設計が有効となるのではないか。この出発点となる問題意識に直接答えるだけの回答としては、本研究の成果は至れなかった。

とはいえ、本研究で核としたリサーチクエスションである「職業とキャリアに関する教育には、国という単位を超える制度設計がはたして有効に機能するのか」に関しては、一定の回答が得ら

れたと考える。なぜなら、「国際バカロレア・キャリア関連教育プログラム」(IBCP)について、以下の各比較対象表(初出は、前出 World Education Research Association 2019: Focal Meeting in Tokyo 発表における英語版)という形で示せる段階までには至れたからである。

表1 「国際バカロレア・キャリア関連教育プログラム」(IBCP)
国を超える(transnational)/国・地域における(national)/現場・地元における(local)からなる3層による比較整理

	イギリス (イングランド)	アラブ首長国連邦 (ドバイ)	シンガポール
国を超える (transnational) 国境を越える学生移動 に焦点化すると	極めて低い 修了生のほとんどがイ ングランド内の大学に 進学する	低い 修了生の進学先は、国 際的評価が高い大学 のドバイ校が多い。家 業に就職するような 自国民修了生もいる	高い 他国の著名な大学 に進学する修了生 が多い
国・地域における (national) IBCPへの政府の関与 に焦点化すると	中央政府が政策推進対 象としていたものの、 政権交代後となる現在 はそうでなくなってい る	良き選択肢の一つと して、政策推進対象で ある	多様な学びを厳正 な評価のもと実現 する政策を進める にあたり、それを 支える選択肢の一 つとなっている
現場・地元における (local) 各実施校における実 践・運用および地元地 域社会との関係性に焦 点化すると	各実施校(基本として 公費による運営)が、 IBCP導入を自ら決め る。地域社会とも豊か につながり、IBCP実践 にも反映している。た だ、地方財政の厳しさ による制約もある(ケ ント州で募金実施も)	各実施校が、IBCP導 入を自ら決めている。 ただ、それらは基本と して営利組織立なの で、地域社会とのつな がりには一定の範囲内 となる。	地域社会理解を培 うという理念に基 づき IBCP 実践を 進める中、その取 り組みそして修了 生進路が世界へと つながる傾向が顕 著となる

表2 「国際バカロレア・キャリア関連教育プログラム」(IBCP)
評価厳正性・到達度、包摂性および財源的持続可能性に関する比較整理

	イギリス (イングランド)	アラブ首長国連邦 (ドバイ)	シンガポール
a. 学習成果に関する 評価厳正性と到達度	評価厳正性 少なくとも訪問調査時には、国際バカロレアのみならず職業資格向 け課程でも十分維持できているように見える		
	到達度水準		
	中位となる 選別度が高くない大学 へと進学が主となる	多様となる 大学進学が主となる (そのまま家業等に 就職する者もいる)	高い IBCP 修了生が国 外著名大学へと数 多く進学する
b. 学習機会に関する 包摂性	中位となる 「剥奪された地域 (deprived areas)」も 含め、公費負担におい て制約が見られる	高い アラブ首長国連邦国 民は、選別なしでその 機会が得られる	低い 芸術を専攻する最 上位層の生徒が、 IBCP履修を選ぶ
c. 持続可能性、特に 財源面において	はっきりしない 政権交代に左右される	高い、 少なくとも当面は すべてのアラブ首長 国連邦国民は、あらゆる 教育費が国庫負担 となる	高い 公教育内で、シン ガポール国民、永 住者そして選ばれ し外国人留学生向 けとなっている

表3 「国際バカロレア・キャリア関連教育プログラム」(IBCP)実施校における
導入目的と入学における包摂・選別に関する比較整理

	イギリス (イングランド)	アラブ首長国連邦 (ドバイ)	シンガポール
プログラム 導入目的	大学等高等教育進学に 向けての新たな道筋と して	営利組織立学校におい て公教育に取り組むに あたっての新たな選択 肢の一つとして	芸術での力量を高い者 が公立学校から進学し ていくための新たな道 筋の一つとして
入学者選考 における 包摂・選別	広く開かれている(適 性・習熟度を考慮した 助言や進路指導あり)	無償で開かれているの は自国民のみ(居住人口 の多数を占める外国籍 者は対象外)	実施校に入学者選考に 関する権限があり、技 量・習熟度等による選別 がある

これら比較表の通り、3つの国・地域において極めて対照的な状況が、学術としての手続きを踏んで、ここまで確認できたと言える。

これら比較表のもとさらに記したい知見が、次である。イギリス(イングランド)では、公費セクターでの IBCP 履修(16歳での義務教育後となる)は、1.総合制中等学校での内部進学、2.旧モダーンスクール(従来主流となる進路が就職であったものの、近年「アカデミー(Academy)」という名称となって多くが改編)内での進学、さらに3.複数中等学校からの IBCP 開設校への進学、これら全3類型がみな包摂的に機能していることが訪問調査によって確認できたと言えよう。一方、アラブ首長国連邦(ドバイ)では、自国民のあらゆる教育費を財政負担する国策のもと、全国民への教育機会保障のための一対象となっている。石油輸出で得られた国家歳入を原資とすることで、IBCP も含めた国際バカロレアが、それが多額な経費を要するものであっても、少なくとも当面運用可能となっている。シンガポールでは、芸術系高等教育機関への進学が主流となる1校のみ現地調査時に開設であったものの、習熟度面における包摂性を志向して IBCP が導入されていると言いがたいと確認できた。実はシンガポールでは包摂的な職業教育が後期中等教育段階において別途効果的と言える形で取り込まれてきているのである(シム, 2009)。

以上の比較検討により、国という単位を超えるカリキュラム枠組みに着目して研究を進める重要性をさらに認識できた。特に、職業専門教育内容を組み込んだ取り組みが、各国それぞれに存在していることに切り込むことがやはり重要であると改めて確認できた。本研究で軸として検討した「国際バカロレア・キャリアプログラム」(IBCP)が、国際バカロレアが独自に設定し評価認定してきた部分とで、質保証や水準の維持でどう関係し合うのかをより明確にすべく検討することが今後の課題とはっきりできた。

ところが、前述の通り、コロナウィルス世界的感染状況により、研究計画の核となる海外現地調査が継続困難になった。最大となる2年度繰り越しが認めていただいたにもかかわらず、その研究作業が十分遂行できないまま期限を迎えざるを得なかった。

研究成果公開に関しては、結局のところ、「5.主な発表論文等」に詳記する通り行えた。それら公できた成果物に対しても、学術研究者と関連取り組みに従事する実践家などからコメントをいただき、今後に向けて前進はできていると認識している。また、研究協力者・赤塚祐哉の書籍(「5.主な発表論文等」詳記)などにも、本科学研究が寄与できた。たしかに当初目指していた研究成果という観点からは全く不十分であるものの、研究深化に資するよう取り組み、今後の発展を可能とするかなりの基盤は作れたと申し上げたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 御手洗 明佳・柳田 雅明・飯田 直弘・中西 啓喜・花井 渉	4. 巻 創刊号
2. 論文標題 国際バカロレア・キャリア関連プログラム(BCP)のカリキュラム分析 - 国際バカロレア・ディプロマ・プログラム (IBDP) との比較検討から -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際バカロレア教育研究	6. 最初と最後の頁 57-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.50923/ibjournal.1.0_57	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Wataru Hanai・Hiroki Nakanishi・Naohiro Iida・Sayaka Mitarai・Masaaki Yanagida	4. 巻 5
2. 論文標題 Bridging the Academic-Vocational Divide in Secondary Education: A Curriculum Analysis of the International Baccalaureate's Career-related Programme in England	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Research into IB Education	6. 最初と最後の頁 31-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 御手洗 明佳・中島 悠介・柳田 雅明	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 外国カリキュラムを提供する学校への公的関与のあり方に関する一考察 - ドバイにおける学校監査を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊	6. 最初と最後の頁 25-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 柳田 雅明、御手洗 明佳、飯田 直弘、花井 渉、中西 啓喜、赤塚 祐哉
2. 発表標題 職業・キャリア教育には国を超える制度設計が有効か - 国際バカロレア・キャリア関連プログラム(BCP)における展開 -
3. 学会等名 日本国際バカロレア教育学会第3回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 花井 渉、中西 啓喜、飯田 直弘、御手洗 明佳、柳田 雅明
2. 発表標題 イギリス・ケント州における国際バカロレアキャリア関連プログラム (IBCP) の導入背景と直面する課題
3. 学会等名 日本教育学会第77回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuya Akatsuka
2. 発表標題 Fostering Creative and Critical Thinking Skills: Analysis of the International Baccalaureate 's EFL Approaches
3. 学会等名 The 23rd Conference of Pan-Pacific Association of Applied Linguistics. (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 赤塚 祐哉
2. 発表標題 クリティカルシンキング (スキル) と国際バカロレアの英語授業
3. 学会等名 日本英語教育学会第49回年次研究集会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 赤塚 祐哉
2. 発表標題 批判的思考力育成と国際バカロレア教育
3. 学会等名 大学での国際バカロレア担当教員養成の課題と展望「教育の国際化研究会」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯田 直弘
2. 発表標題 大学入学者選抜における外国・国際資格の評価方法及び認証枠組みの開発 UK NARIC とUCAS の役割・機能及び評価方法の比較を中心として-
3. 学会等名 全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第13回)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯田 直弘
2. 発表標題 ENIC-NARICによる外国・国際資格の認証・評価と大学入学者選抜における役割・機能 UK NARICの事例を中心として
3. 学会等名 国家・分野横断型資格枠組みに基づく入学者選抜に関する研究会 (ACQUA)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 御手洗 明佳
2. 発表標題 批判的思考力育成と国際バカロレア教育
3. 学会等名 2018科研費合同研究集会「教育の国際化研究会」(早稲田大学情報教育研究所・明治大学サービス創新研究所共同主催)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中西 啓喜・柳田 雅明・飯田 直弘・中島 悠介・御手洗 明佳・シム チュン・キャット・花井 渉
2. 発表標題 国境を越えて機能するキャリア教育プログラムを、国際バカロレアが可能にするのか - 国際バカロレア・キャリア関連プログラム (IBCP) を中心に -
3. 学会等名 日本比較教育学会 第53回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 柳田 雅明
2. 発表標題 誰にでも権利として保障される教育と学習とは何か - 職業に関する内容を焦点に -
3. 学会等名 第64回日本職業教育学会関東地区部会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masaaki Yanagida, Choon Kiat Sim, Wataru Hanai, Sayaka Mitarai, Yuya Akatsuka, Hiroki Nakanishi, Yusuke Nakajima, Naohiro Iida
2. 発表標題 Transnational Frameworks for Vocational and Career Curriculum in National and Local Contexts: The International Baccalaureate Career-related Programme in England, Dubai, and Singapore
3. 学会等名 World Education Research Association 2019: Focal Meeting in Tokyo (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 御手洗 明佳・中島 悠介・柳田 雅明
2. 発表標題 多様な個に応じたキャリア・職業関連プログラムの設計と進路 - ドバイにおける国際バカロレアキャリア関連プログラムを事例として -
3. 学会等名 日本カリキュラム学会第30回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柳田 雅明・御手洗 明佳・飯田 直弘・花井 渉・中島 悠介・シム チュンキョット・中西 啓喜・赤塚 祐哉
2. 発表標題 職業キャリア教育プログラムにおける国を超える枠組みは、各国・地域でどう機能するのか 国際バカロレア・キャリアプログラム (IBCP) を例にして、イングランド・UAE(ドバイ)・シンガポールで比較検討する()
3. 学会等名 日本比較教育学会 第55回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 赤塚祐哉	4. 発行年 2018年
2. 出版社 松柏社	5. 総ページ数 119
3. 書名 世界標準の英語授業 - 国際バカロレアの英語教育とその実践 -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	飯田 直弘 (Iida Naohiro) (80578063)	北海道大学・高等教育推進機構・准教授 (10101)	
研究分担者	中西 啓喜 (Nakanishi Hiroki) (10743734)	桃山学院大学・社会学部・准教授 (34426)	
研究分担者	御手洗 明佳 (Mitarai Sayaka) (00725260)	淑徳大学・教育学部・准教授 (32501)	
研究分担者	花井 涉 (Hanai Wataru) (60783107)	独立行政法人大学入試センター・研究開発部・助教 (82616)	
研究分担者	中島 悠介 (Nakajima Yusuke) (60780939)	大阪大谷大学・教育学部・准教授 (34414)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	赤塚 祐哉 (Akatsuka Yuya)	早稲田大学本庄高等学院・教諭	
連携研究者	シム チュン・キヤット (Sim Choon Kiat) (60721446)	昭和女子大学・生活機構研究科・准教授 (32623)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関